

16 ビリヤード

I 競技の特性

ベッド上で参加する場合でも、場所固定ではなく、ある程度アクティブに動いて達成感が持てる。
他の児童生徒が活動している時も、戦況を見極め、作戦を変更しなければならないので、飽きずに取り組むことができる。

II 施設・用具

1.施設

屋内が望ましい。

2.コート

体育館の半分程度の広さがあれば、プレイヤーの実態や活動に合わせて設定して良い。

3.用具

- (1) ボール…ドッジボール、あるいはドッジボール大のスポンジボールなど。
- (2) 防球ネット
- (3) フラフープ

III 競技の方法

1.人数（チームの編成等）

2名以上。基本的には個人戦で行う。

2.競技の進め方

(1) 体育館のフロアに、ビリヤード台をイメージしてフラフープを置く。フラフープの周りには防球ネットを配置する。

(2) ビリヤードと同じ要領でボールを転がす。

① ナインボールと同じように、まず中央に集めたボールにぶつける。

② 一つずつボールをぶつけてフラフープをめがけて入れていく。入らなければプレイヤー交代。

※自力で転がせない場合(ベッド上など)は、雨樋などを使用する。

※壁などに跳ね返って入っても、間接的にボールをぶつけて入れてもOK。

3.勝敗の決定

ボールが全部入ったらゲーム終了。1球1点。点数が多い方が勝ち。

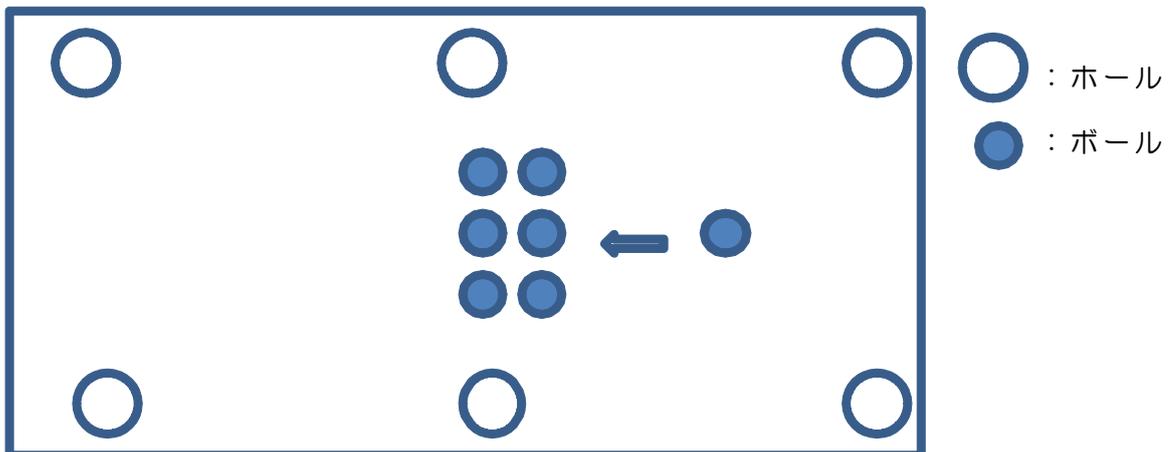


図1 全体図